

夏山雜談

番外書冊

| | | | |
|------|----|----|----|
| 庫文閣内 | | 和書 | |
| 二函 | 五八 | 架冊 | 類號 |
| 二 | | | |

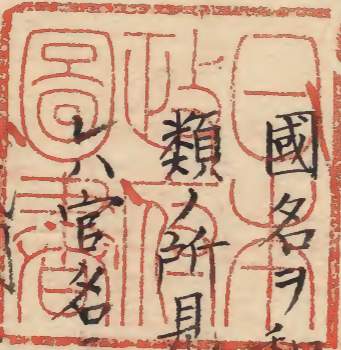
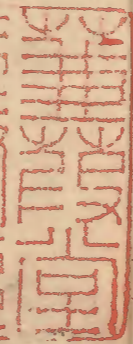
| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 18781 |
| 冊數 | 5 (2) |
| 函號 | 212 55 |



夏山雜談二

淺草文庫

百辟ト八百官ノ事ナリ、論語ニ辟公トアリ、諸侯ノ夏
ナリ



國名ヲ和州河州ト書事ハ本式ニ六十事ナリ、史
類ノ所見モナシ、然レトモ詩文章ニ昔ヨリ多ク用事来
ル官名ニ唐名ヲ用ルコトナルベシ、官名、國名トモ
ニ我國ノ正シキ製法ヲ、唐名ニ換テ書ク事ハ本意
ナキワザナリ、如何ナル人ハシメタルニヤ、其事ナ古
シ延喜以來粗所見アリ、サレトモ、今ノ書、様トハ
カハリタルモアリ、今ハ但州ト書ク、カカシハ馬州ト

書タルニヤ、本朝文粹ニ山ノ井中納言 水無瀬家祖

但馬國ニナガサレテオハセシ飯京ヲ元サレシト請ヒ

給ヒシ狀ニ云嗚呼昔侍鳳闕已為羽翼之臣今

在馬州長作菟菟之士云又今ハ濃州ト書

ヲ美州ト書タルニヤ大江匡衡朝臣ノ美濃守

源賴光朝臣ニ報スル書ノ宛所ニ謹上美州判

使硯下ト見タリ

大和ヲ和州近江ヲ江州ト書類ハ文字ノ義理ノ

オモキカタヲ用ルハサモアルヘシ攝津ヲ

攝州上野ヲ上州遠江ヲ遠州ト書類ハコト

口ヲ得ガル事ナリ

甲陽尾陽ナト、國名ニ陽ノ字ヲ用井或大

坂ヲ坂陽長崎ヲ崎陽ト云事近世流俗ノ

ヤウニナリ又如何ナル人ノイヒハジメタル事

ニヤ皆是奇異ナル事ヲ好ム人ノオスワザナ

リ或書ニ異國ニテ陽ノ字ヲ地名トスルハ山ノ南

河ノ北ニアル所ヲ云ナリ咸陽漢陽丹陽ノ類

ナリ此等ノ事ヲワキマヘスレテ我國ノ國名

ニ陽ノ字ヲモクウル事ハ笑フヘシト見エタリ

官職國名等ニ唐名ヲ用井ラル事ハ古ヨリ

往古河陽ト
イニ今今ノ
山崎ニ事ナリ

公事政事ニオイトハナキ事ナリ。詩文章
三粗所見アリ。詩文章ハ異國ノ法ナレバ
ナリ。

○贈官贈位ノ時ハ其宣命ヲ墓ニテヨミテ焼スツル
ナリ。近比崇賢門院御贈官ノ時盧山寺ニオイ
テカクノ如シト聞シ。

○贈官贈位ハ死シタル人ニ官位ヲ贈リ賜ハル事ナ
リ。其官位ノ職田位田ヲ賜ハラシタメナリ。是ヲ
其家ニ領スルナリ。年限アリテ其カギリ過スレバ
返上スルナリ。續日本紀天平九年十月紀ニ曰贈

民部卿正三位藤原ノ朝臣房前正一位左大臣
并ニ賜食封二千戸於其家限以二十年ヲ云
義仲朝臣ヲ世ニ朝日將軍トイヒシハ朝日ノ如
クスユシノ間ト云事ノヨシナリ。壽永三年正月
十日將軍ノ宣旨ヲ蒙リ同月廿日近江ノ國
粟津ニテ七ヒラレシ故ナリ。

○不比等公薨シ給ヒテ文忠公ト謚ヲ賜ヒ淡海國
改近ヲ封セラル。淡海公ト申ス。是異拜ノ太
公望ノ故事ニヨリテナリ。此例ヲモツテ良房

忠仁公
美濃

基經

昭宣公
越前

忠平

貞信公
信濃

實賴

清慎公
尾張

伊尹 謙徳公

兼通 忠義公

頼忠 廉義公

為光

恒徳公

公季

仁義公

等公

駿河

十公トイフナリ、東三條、攝政、入道ニ給ヒ法
與院ト号ヲ賜フ、是人臣院号ヲ賜ハルハジメ
ナリ、是ヨリノ千佛道ノ法ヲモツテ、院号ヲ賜
ハリ、謚号ノ沙汰ハナクナリタリ

允院号ハモト勅許アリタルナリ、今ノ世ハ法名
トテ妄ニ院号ヲ用ル事ニナリヌ

官位姓名ヲ書連ル事ヲ、位署トイフ、和漢ト
モニ書法ノアル事ナリ、豊臣太閤朝鮮ヲ伐給

ヒシ時、異國ト書札ノ贈答アリ、日本國、摂津州前
司小西秘書少監豊臣行長ト書テ、オノラレ
タリトナリ、我國ノ正シキ官名ハ用井ズ
シテ、唐名ヲカキタルハ、日本ハ唐ノ管國ノゴト
ク聞ユルナリ、此時五山ノ僧ヲ渡海サセテ、書
簡ノ事ヲツカサドラセラレタリ、イカンゾ、我國
ノ書法ヲ知りタル人ヲモ用井ラレザルヤ惜
哉

○位署書、宣旨書、和歌ノ懐紙、此外文書ニヨリ
テ署ノ法アリ、又位署ニ臣ノ字ヲ書入ル事

ハ奏聞ノ者ナリ、奏聞セザル文書ニハ臣ノ字
ハカ、又支ナリト。

平ノ將門返逆シテ、自平親王ト僭号セシト、
世ニ云傳フ姓ノアル親王其例ヲキカズ、將門
モ是ヲ辨ヘザルニヤ。

○藤原實盛ハ小松内府ノ家人トナリ、彼内府ノ
所領武藏國長井莊ノ別當ニ補シタル故ニ
長井、脊藤別當ト云ヒシトナリ。

寺院坊トモニ官舎ノ号ナリ、佛法漢土ヘキナリ
シ時、鴻臚寺ニ着キ、白馬寺ノ号アリテヨリ、佛

像ヲ置所ヲ寺トイヘリ、其後佛法日本ヘ未
リテ、ハジメテ佛寺トイフ事出来タリ、院モ
坊モ亦後ノ事ナリ、寺主院主坊主トハ其所
々ノ又シナリ、今ハカシラヲ剃リタルハ皆坊主
ト俗ニ云ヒナラハシタリ。

○大夫トハ五位ノ異名ナリ、源大夫判官大夫ノ尉ト
云モ皆五位ノ判官ナリ、千葉父ノ六男、東六郎
胤頼モ從五位下ニ叙シタルニ依ツテ、六郎大夫
ト云、三浦平大夫足利ノ藤大夫ト古キ物語
ニアルモ皆無官ノ五位ノ侍ナリ、又五位躰ヲ

大夫鷺トイフモ是ナリ

無官ノ大夫敦盛トイウハイニ夕任官セス從五位下ノ爵ヲ賜ハリタル故ニ無官ノ大夫トイヒシナリ今テノ世ニモ堂上方ノ御息幼少無官ニテ叙爵ニ給ヒタル多シ是皆無官大夫ナリ

内舍人ハ人數多クテ紛ル故ニ各其姓ヲツケテ源内藤内平内善内伴内ト云ナリ天野藤内ハ藤原氏ノ内舍人ナリ紀内行景ハ紀氏ノ内舍人ナリ伊賀ノ平内左衛門ハ平氏ニテ内舍人ト左衛門尉ヲ兼帶シタル人ナリ今テ世源内

平内藤内ナト呼名ニツクハ僻事ナリ

業平朝臣ヲ在五中將ト云ヒハ在原氏ノ五男ナリ

平家物語ニ重衡卿ヲ本三位中將惟盛卿ヲ三位中將資盛卿ヲ新三位中將ト書キシハニギレ又タメナリ

大納言ハ人數多ク名字ヲ書サル時ハ混スル故ニ權大納言新大納言藤大納言平大納言或兼官ヲ称シ又ハ称号ヲ加ヘテ三條ノ大納言ナト文書ニシルス事ナリ是私ニ云事ニアラス

新仕辨官鈔曰公卿官中所定也
權大納言之類定其異或加姓敢不混同
但有兼官之稱兼官也

官中ニテ定^メラル、事ナリ、夕トハ安徳ノ御世、
平氏ニ大納言^{オホ}多ケレトモ平大納言トイヒレハ
時忠郷ノ事ナリ、然ルニ藤原氏ノ人ヲイ
ツレモ藤大納言ト云ヤウニ覺エタル人モアリ、
僻事ナリ中納言モ亦是ニ同シ、

上達部^{カニタチ}次將トハ中納言中將宰相中將三位三位、
中少將等ヲ云ナリ、

階級ハ人ノ尊卑ヲワカツシナナリ位ノ訓ハ座^{クラ}居^イ
ノ意ナリ、

工匠ハ諸器ヲ造ルモノ、惣名ナリ、番匠ト云カシ
飛驒國ヨリ、毎年交替シテ、都へ勤番セシ故ノ
名ナリ、是ヲ飛驒匠トイフ、飛驒匠ト云フハ人
ノ事ニアラス、彼國ノ工匠ハ皆飛驒匠トイフ、
此中ニ大工少工ト云フ職アリ、今ハ世俗ニ才
シナヘテ大工ト云ナリ、

○大臣ハ名ヲ称セスト云事アリ、大皇女ル人ノ名字
^{名案}ハ^ノ古^又ハ^ノ古^又ニ書籍ニモカ、又古ナリ、夕トハ仁義公
法性寺殿常磐井殿ナト、書テ御名字ハカ、又事ナリ、
然レトモ事ニ依ッテ混スル事アリ、カ、子バナラヌ又古
モアリ、其時ハ三条大臣公親或太政大臣基具或

公相大臣ナド、書ハシ是止事ヲ得ガル時ノ事ナリ、
天下施行ノ文書或位記ニモ大臣ハ名字ヲカ、ス
右大臣正二位朝臣ナト、アリ、大納言以下各名
字ヲ書ナリ、百人一首其外歌書ニモ大臣ノ名字
ハ書ノセス、三條右大臣河原左大臣或貞信公謙
徳公トアリ、就中聖廟ノ御名字ハ制アリ
テ假ニモ申サヌ多ナリ、記録ニモ右大臣菅
^{職原}原百人一首ニモ菅家トバカリアルナリ、近比印
行ノ書物ニ菅家ノ御名字ヲ妄ニ書レハス、
然ルヘカラス

御諱御謚号ハ後世カリニモ用井ガル事ハ論スル
ニ及バス、御在所ノ号ナドハ制ノカキリニアラス、
一條醍醐四條土御門ノ類、堂上方ノ称号又
モアルナリ
○三浦ノ女ト云ハ相模國三浦ノ住人ニテ、其國
ノ女ニ任シタルナリ、其比ニテハ武士ニ
高官ナク在國ノ女ニ任シタルハ規模ノ多ナリ、
仍ツテ時ノ人は是ヲ称羨シテ、三浦ノ女トイ
ヒシナリ、是他人ヨリイフ事ニテ、自身ニハ
相模ノ女トイフヘシ、自身ニ三浦ノ女トイハ僭

東鑑建久三
年七月廿音
鎌倉殿將軍三浦ノ義
澄是ヲ請取時ニ三浦ノ荒次郎義澄ト名乗
夕ルハ謙退ノ詞ナリ平家物語ニ右兵衛佐ノス
ケノ字ニヤオソレケン三浦ノ夕トハ名ノラズシテ
三浦ノ荒次郎ヨレズミト名乗夕リトアルハ例物
語ノ一躰ナルベシ

号ニナルナリ千葉夕狩野夕等ノ類モ是ニ同

鎌倉殿將軍三浦セラレシ時院宣ヲ三浦ノ夕義

澄是ヲ請取時ニ三浦ノ荒次郎義澄ト名乗

夕ルハ謙退ノ詞ナリ平家物語ニ右兵衛佐ノス

ケノ字ニヤオソレケン三浦ノ夕トハ名ノラズシテ

三浦ノ荒次郎ヨレズミト名乗夕リトアルハ例物

語ノ一躰ナルベシ

叙留判官ヲ左近大夫右衛門大夫トイフモ他令

リ称美シテ云事ナリ自身ハ左近將監右衛門

尉トイフベシト古記ニモ見エタリ

○鞞負佐ハ多ハ左右衛門ノ權佐ニテ檢非違使ノ

宣旨ヲ蒙リ夕ルヲ他人是ヲ称美シテ鞞負佐

トイフナリ自身ハ只右衛門權佐ナト書札ニ

モ書ヘシ自身ニ鞞負佐トイハハ僭号ナリ

近代鞞負佐左右近大夫左衛門ノ大夫等ヲ称ス

ルハ正シキ官名ニアラザルナリ

内藏助縫殿助ヲ呼名ニツクモ僭号ナリ或人

是等ハ助ノ字ヲ書換テ内藏夕トハクルシカル

一ツキヤトイヘリサラバ左京夕常陸亮トモ

書テ無官ノ呼名トスヘキヤ

呼名ニ用ウ^レシキ名ハ藏人大貳少貳奉膳典膳
帶刀郡司兵衛集人舍人掃部衛士等ナリ

○法中六山々寺々ニテノ私官アリ新儀真言宗
ノ僧智積院ニ住シテ学徳年薦モヨラス大覚
寺門跡ヨリ法印僧都ノ官位ヲ申受ル其許
狀ニ某ノ僧可為法印権大僧都之由御氣色候
者也トアリテ坊官ノ署アリ是法印僧都ニ准
スルノ儀ニテ晴夕又夜ナリ勅授ノ法印僧都
ナトハ同日ニモ談ルヘカラス

○四世無位ト云又ハ一位ノ子孫トイヘトモ代々非
器無才ニテハ四世ニ至リテハ無位ニナルナリ

○蔭位ト云又ハ一位以下五位以上ノ人ノ子孫ハ非器
無才トイヘトモ父祖ノ蔭ニヨリテ其々ノ位ニ叙
スルナリ是ヲ蔭位トイフ六位ヨリ以下ノ子孫
ハ父祖ノ蔭タエテ無位ニナルナリ

右筆トハ文筆ノ才ヲ云ナリ平家物語殿上ノ
ヤミウチノ段ニ忠盛朝臣ノイハク我右筆ノ身
ニアラス武勇ノ家ニ生レテ云書役ノ人ヲ右筆ト
イフモ昔ヨリイヒタルニヤ東鑑ニ見エタリ又手書
トモイヒシニヤ平家物語ニ木曾願書ノ段ニ手書

ニ具セラレタリケル大夫坊覚明ト云云

旗ハ周禮ニ折_レ羽為_レ旗トアリ鳥_ノ羽ヲ旗ノサキ

ニツケタルナリ釋名ニ熊虎為_レ旗トモ見エタリ

クマトラナドヲツクリテツケシナリ又曹_ノ上_ニモ

羽ヲツケタルナリ是故ニカブトノ數_ニハ子_ニハ子_ト

云フ名目アルトゾ

ヒタモノト云詞モヒタノト云詞モ混ノ字ナル

ヘシ混ハ水流ノミジナル儀ナリ混_{ヒタ}曹_{カフ}三百騎ナト

軍物語ニ書タルモ水流ノ如クアナタコナタヨリ

集リタル兵士ナルヘシ

ハリタル弓ヲ一張ニ張トイフハラヌ弓ヲ一枝ニ枝

トイフ的矢モ一手ニ手トイヘド延喜式ニハ

一雙ニ雙トモ見エタリ

噲樂磨カ幼時或人ノイヒハ錄ニ矢ヲサスニ必

的矢ヲサシ加フルモノナリト其後年ヲテ平家物

語ヲ見ルニ競カニ井寺ヘミイリシトキ瀧口ノ骨法

ワスレジト鷹ノ羽ニテハイダリケル的矢一手ゾサ

シソヘタリトアリ或人ノイヒシモ此等ノ夏ニヤ

的ヲ射ニユカニ矢籠ニテマレ矢筒ニテマレ紙_{カミ}作_{ハキ}ノ

矢ニ手漆_{ウル}作_{ハキ}ノ矢一手矢代_ニ征矢_ニスナ_ニ都合_九

必持ツヘシト、竹林流ノ弓、法者ノイヒシ

イクサ見テ矢ヲハグト云、諺ハ素問四氣大論ニ云

夫病已成テ後藥之、乱已成而後治之、譬猶渴而

穿井鬪而鑄兵、不亦晚乎云、是諺ノ意ナリ、

軍中ニテ鯨波トキノミヲアグルハ、雜兵ノウザナリ、士分ハ

声ヲタテザルナリ、狩ノ時勢子ノ声ヲタツルモ、

亦是ニ同シ

ハヤブサハ鷹ノ中ニ下品ノモノナリ、是故ニ侍ホ

ドノモノハ、居エザルノヨシナリ

○鎧直垂ト云ハ、ヨロヒヲ着スル時ニ用ルヒタレナリ、常ノ

直垂トハ裁縫替ルベシムカシハ侍ホドノモノハ、皆是ヲ

着セシナリ、尊卑ニヨリテ、地ト色ハ替ルヘシ、中比ヨリカ

ウヤウノ服モオトロヘテ、知ル人モナキヤウニナリタリ、

○鎧ノ毛色ニ紫白、萌黄ニホヒト云ハ、上ニテ紫系ニテオ

ドシ下モ二三段モ薄紫ニテ、オドシタルヲ、紫白トイフ

ナリ、萌黄ニラヒトハ上ハ萌黄、下ハウス萌黄ナリ、此

名目ハ、蓑束ノ衣キヌノ色、目ヨリ起リタル又ナリ、上ハ

ムラサキニ薄紫ヲカサ子タルヲ、此系白ノ衣キヌトイフ

リ、自余ノ色モ、深コキイロ色ニ同色ノ、浅ウキイロキヲカサ子タルヲ

白ヒトイフナリ、山吹白紅白、三十同事ナリ、又

知表此未深
ステ鎧ニ
ハ多ク衣ノ色
目ナリ

弓ナドニ、白藤ト云モ、此意ニテアツク卷タル藤
ニウスクミキソヘタルヲイフナリ。

他人ノ鎧ヲ見ル時ハ射向ノ方ヲ見ルヘシオシツ
ケノ方ハ見サルモノナリ。

他人ノヨロヒヲホムルニ見事ナリトハイハヌモノナ
リ、軍中ニテ手ヲ負タル人ヲ見ヌトイフ故ナリ。

他人ノ鞞ヲ見ハ表バカリヲ見テ裏ハ見ルヌナ
カレ裏ヲモ見ヨトアラハ辞セズシテ見ルベシ。

ホダレ首トハ首ノキリクチヨリ、脇ナドノ出テ見
グルレキヲイフカ、ル首ハ將ノ實、檢モ備ヘサル

故實ナリ、薄ノ穂ナドノ如クワタノサガリタル
故ニ穂垂首トイフニヤ。

矢束ヲサダムルハ籍ヲ已ガ左ノ乳ニアテ、左ノ手
ヲノバシ指ノサキノアタルトコロニテ定ムヘシ。

武人ハ文武ノ道ハ勿論、雜藝ニテモ一事ニ通達ス
ルハ義理ヲ能クワキテ故ニ死然ノ全キモノナリ、近

代浅野家ノ四十余人無藝ノ者ハナカリシトナリ
ヒヲトシノ鎧トイフハ氷魚威ナリ、サシヌキノクナリ

ニモ氷魚ク、リアリ、ウススキ水色ノヨシナリ。
打飼ト云モノハ狩ノ時、犬ノ食物ヲ入レテ、犬牽ノ

紅威ヲ俗ニ緋威
イフナリ
仲綱、伊勢、吉野
ノ威ハ氷魚威ナリ
氷魚威ハヒトシナリ
緋威ハヒトシナリ
假名ノ違ナリ

腰ニツクル袋ナリ。飢^ウタル犬ニ手シテ食物ヲアタ
レハ手ニシヒツクモノナリ。是ヲ地ニウチツクレ食
物ノ出ルヤウニシタルモノナリ。是故ニ打飼トイフ。
裁縫ハ鷹^ト大家ニ秘スルトナリ。今商家ニ錢ナトヲ
入レテ腰ニツクル袋ヲウチカイト云ハ丈ノ打飼ニ
似タル故ナリ。

○今ノ世ニ士良伊勢流ナトトテ、法ノ故實ヲイ
フモノアリ。コレラノ所作ヲ見ルニ古礼ニテハ
アルニシキトオモウ。莫モアリ。近世ナカシキモノ
イデキテ、其流儀ノ礼ト称シテ、偽作シタル事
多シト見エタリ。譜第連綿ノ家ニサヘ古法ノオ
トロタル多シ。況應仁ヨリノ千盛衰幾カヘリト
モシレヌ家ナトニ古礼ヲ傳ヘタルトイフ。莫ウタガ
ハシキ。莫ナリ。犬追物ナトハ嶋津家ノ傳ナラテ
ハ證トシガタシ。

近世或儒者
獄門ニカケ
レタリ

ムカシ朝敵ノ首ヲ獄舎ノ門ノ棟ノ樹ニカケテラ
レタリ。記録ニ梟^ニ首^ヲ獄門之樹ト見エタリ。後世ハ
獄門ニアラス。他所ニカクルモ獄門首ト俗ニイヒ
ナラハセリ。又首ノ字ヲ省キテ獄門トガリイ
フヤウニオホエタル人モアルハ文字ニツキテア

夕ラ又事ニナリヌ

鎗ノ中心ノ短キハ通ル事鈍久長キハ銳スレ又袋

鎗ハ就中鈍キモノナリト古老イヒ其理モツト

モサモアルヘシ

馬ノ毛色ハ連錢ヲ最上トス黒月毛ヲ極下品

トス此中間ニ青黄赤白黒ノ五色ニワケテ一色毎

ニ五種アリ青極黒白麩如黄蘆毛赤柀子

粟毛雲雀毛白極白黒烏黒

額白鹿毛白溢月毛黒蒼鷺

雪蹄黒月毛以上各四種ニ駁マダラヲクハヘテ五種ナリヌ

ナシキト訓スルハ古語ナリ

馬ノ長ハ四尺ヲ常トス四尺ニ滿マサルヲ駈トイフ四

尺一寸ヲ一キト云ニ寸ヲニキトイフ八寸ニ超コエテ

タケニアマルトイフ

馬ヲモトメテハジメテ来リタル時ハ白カヒラケヲ入レテ

飼フナリ古ヨリ風俗ナリト聞シ又常ノ槽ノ

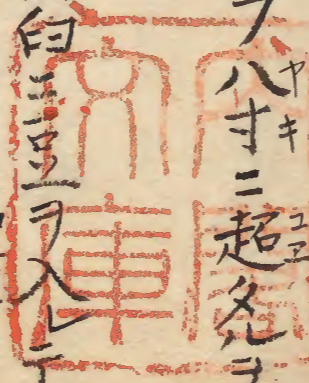
深サモ白ノフカサニシテ槽ノ下ニ何ニテモ敷テ

白ノ高サニヒトシクシタルガヨレトナリ又許ノ長

サハ馬ノ頭ノ長トヒトシクスルモノナリトイフ

是等ハミナ故アル事ナリ

玄旨法印ハ其家ノ武備ヲ全フシテ歌道モ亦



世聞エタリ織部トカヤイヒレハ我家ノ武ヲ
忘レテ茶道ヲ專ニ好テ其好ム道ヨリシテ家モ
亡ヒタリサレハ貴賤トモニ家業ヲ專ニシテ余カ
アラハ他ノ藝術ヲ学フヘシ
ムカレノ武士ハ組討ヲ好ミタルユエニ相撲ヲ武藝
トセシナリ近世戦法ソナハリテ組討ヲ好ム又
故ニ武藝トセガルナリ是故ニ今ハ下賤ノ業
トナリヌ

○ムカレ相撲ノ節ヲ行ハレ諸國ヨリ相撲者ヲ
テ敵覽アリシナリ此時ハ相撲裝束トテ別ニ裝
束アリタルナリ鎌倉將軍家ノ時歴々ノ武士
ノ侍相撲ヲトリシハ皆裝束セシナリ近代下賤
ノ業トナリテヨリ素肌ニナリタルナリ

引法オト口ヘテ知ル人希ナルユエニ今京的勸進
ト云^的ナトヲ礼射ノヤウニ覺エタル人モアル
ニヤ

奉射的ヲ常ニ真行ゼサル故ニ知ル人希ニ成テ
傳授スル事ニナリ又京的ナトモ後々ハ秘傳
スルヤウニナリナント思ハル
世間ノ賄的ヲ見ルニ京的サヘ知ラヌ人ハ其詞ノ

ツメナサ根^{チドリ}振ヲ眠ト覺工所務ヲ勝負ト
云ヤウナル夕グヒアゲテカゾヘカタシ

○竹ノ木カレシナドニテ目ヲツキウタレタル
時ハ鳴瀧砥ノ粉ヲ眼ニ入レテヨシ又砂糖水ニ
テ洗ヒテモヨシ

○竹ノ刀ニテ目ヲツカレ或強キ弓ノ肩^{カサ}入ナドスル時自
玉又ケ出テ四五寸モ下ル^{カサ}変アリ其時ハ目ノ玉ヲ
掌ニ請テ冷水ヲソロソトカクレバモトノゴトク
ヲサマルモノナリ

○サシ矢ナト射テ腕イタミ或釵^{ヤシ}術ヲナラフ時
木カレシナヘサト當リ痛バ松^{マツ}脂ト胡麻ノ油ヲ
煉^{チリ}合テアタニ^{チリ}リノアルウチニ痛所ニ厚ク又
ルベシ暫時ニ痛止ムナリ又常ニ是ヲ煉テ紙
ニケ置テ用ル時ハ火ニテアタメ付クベシ此膏
薬スベテ打身ヲ治スル事妙ナリ

○熊ノ皮ノ障泥ハ古制ハ五位以上ノ人用ルナリ
六位以下ノ人ハ用井サルナリ况無位ノ人ニオイ
テヲヤ

鉄砲ノ筒中ニ^{キス}瑕ノアルハ見エガタキモノナリ
銚^{チヂ}金ノサキヲ磨キ鏡ノ如クニシテ子チガ子

ヲサレテ火皿ノロヨリ明アキラヲウケテ筒口ヨリ見
ルヘシヨク見ユルモノナリ

敵ノ首ヲ一級二級ト云々ハモロシ秦ノ時ノ
法ニ敵ノ首ヲツ取タルモノハ位一級ヲ授ケニツ
トリタル者ハ位二級ヲ授ケシヨリ此各目アリト
ソ

刀、劔及茶器其外諸道具ヲ好ミ自然ト目利メキ
ニナリ後ニ價ノ賤ニ買ヒ貴ニ賣ルノ癖セイデ
キテ心ガシノツタナクナリタル人ヲ嗜樂磨
カ若年ノ時ヨリ多ク見タルナリ

戰場ニテ首牒ハ其奥ニ負數ヲ牒ニ直ナニ書シルスナ
リ軍勢著到ハ人數ノ高ヲカリニ短冊ニ書テ
捺オスナリ著到ハ直ニカヌモノナリト曾我丹波
守ノ説ナリト或人ノカタリシ

制札シテ式正ノモノナリ三箇條ヨリ外ニハカ又法ナリ

モシ四箇條アルトキハ一字低テ附リト云字ヲ書テ
其事ヲ書載ヘシ掟書法度書ハ何箇條ナリトモ其品
ニヨルヘシ是亦曾我氏ノ説ナリト聞シ

○硯箱ノ蓋ナトハ假初ニモアフノケテハ置カ又モノ
ナリト聞シ

ニ加へタルモノナリト聞ケリ是ヲモツテ見レハ黄鐘ノ長八曲尺ニテ八寸ナルニヤ黄鐘ノ長八十一月ノ律ノ寸ナリ管ニヨリテ長短アルヘキ変ナリ音律ノ聖ナラデハ真ノ寸ハ得ガタカルヘシ遠鏡ニテ日ヲ見レハ夕十ニテ目ツブルハ変アリ必見ル変ナカレ噲樂磨カ若年ノ時盲ナリ人ヲ見タルナリ又是ヲ久シク見レハ氣カノ衰フルモノナリ

○對馬國ヨリ朝鮮ヲ遠鏡ニテ見レハ漆ニ船ノ出入ノ見ユルト云人アリ天地圓形ナレハ見ユヘキ理ナレ

噲樂磨西國へ下リシ時海上ヲ見ルニ七八里程ニテハ船ノカタチ見ユルナリ十里程ニ及バハ船ハ海ニカクテ帆バカリ見ユルナリ是天地圓體ノ證ナリ武藏七黨トハ私市丹兒玉金子村山海老各須貝云云

坂東ノ八平氏トハ平山稻毛長井榛澤榛谷都筑足立豊嶋或兒玉云云

紀伊國熊野ノ八莊司トイフハ玉置湯淺秋津芋瀬真砂山本日出湯川ナリ

○女ハ其夫ノ官位ノ級ヲモツテ進退スルサダメ

一日ノ晴ハ事ニ
ヨリテ一雨日モア
ルナリ假令云云
座海宮神事
時神主其八身ハ
位ナシトモ思
束ニ禁色ヲ着
其体公卿ノコト
是等ノ類ニ日
註リトイフ
此モ馬ニ身ルトキ
奴隷ヲ着ルナリ

ナリ衣服モ夫ノ服色ヲ着ルナリ公卿ハ勿論殿
上人ニテモ禁色ヲ聴リタル人ノ妻ハ禁色綾織
物ヲ着ルナリ殿上人トイヘリモ色元サレガル人ノ
妻女ハアヤヲリモノハ着ザルナリ地下ハ勿論ナリ
是則式ノサダメナリムカシ豊前トイヒシ采女一日
暗ノ儀ニテ蒲苧エビソメ深ムラサキイロノ奴袴ヌカマヲ着テ
馬ニ乘テ行幸ノ供奉シタリ此豊前ハ醫クヌ師重正
トイフ人ノ相知リタルモノナリ豊前カ紫ノサシヌ
キヲ着タルヲ山井大納言ノ重正ハ禁色ヲユ
ルサレタルカトタム戲タムテイヒ給ヒタルト清女ノ枕草

紙ニ書カレタリ是女ハ六ノ服色ヲ着ル故ナリ
今ノ世凡下ニイタリテモ女ハ制禁ノ外ナリト
テ織物ノ類ヲ妾ニ着ル莫大ナル零落ナリ
裳モギ着ト云ハ女子ノ成長シテ始テ裳ヲ着ル事ナ
リ

○衣服ノコクビト云ハエリノ事ナリオホクビニ對
シテイフナリ

○腰着トハ卷結ノ事ナリ
柳筥ハ名目ヤナイバナリヤナギゴリノ事ナ
リ覽筥トモイヘリ

一ナイタハ魚板ナリヤナ^{イタ}釜^{イタ}魚箸^{イタ}ナリヤナト
ハ魚ノ夏ナリ高貴ノ上ヘニ真名始ト云ハ誕生ノ
若君ニハジメテ魚味ヲ奉ル事ナリ
火所ハ^{イタ}クトコナリサカサニシテ山ゴト
クナリ

俗ニ鐘木杖トイフハ鹿杖ノ事ナリ山ノカ
セギトイフモ是ナリ

鑑 唐書曰以銅為鑑可正衣冠以古為鑑
可與替以人為鑑可明得失云カ、ミノ
訓ハカンガヘミルナリ

宿紙ハモトハ熟紙トモロク熟ノ字ヲ清ミテヨムナ
リ熟ノ字ヲ清ミテヨムスベキタメニ文字ヲ書カ
ヘタルナリ縮線綾モトハ熟線綾ナリ是亦
清ミテ各目スベキタメニ文字ヲカキカヘタルナリ
燧袋ハ三角ニヌウモノナリ三角ハ火ノカタチ
ナリ昔ヨリ火ウチハ旅行ニハ必持シモノナ
リ陽氣ヲモトムルモノナリ神夏ニハ火ヲ改ル
ニヨリテナクテハナラヌモノナリ穢レタル火ナ
リトモ燧ヲモツテ火ヲウチカケテ清淨ニスル
夏モアリ陣中ナトニテハ專用ノモノナリ又

軍防全見

昔旅立ノ人ニヒウチヲ馬ノハナムケニシタル事
古書ニ見エタリ

紙服ニ火ウチトイフモノヲ付ル火打袋ノ形ニ
三角ニスルユエノ名ナリ

粉順ノ和名抄ニシロキモノ今云白粉ナリ古キ
物語ナトニシロイモノト見エタリサレハオシロイ

ト書ハ御白粉ナリ御オシロイト書クハアシ、
深草ノ土器トハ今伏見ノ深草ニアラス嵯峨ニ深

草トイヘル所アリ此所ノ事ナリ今ニ至テカワ
ラケヲ出ストナリ

尾張國名古屋ニ南方トイヘル鍛冶アリ彼ヲ南
方トイハル源敬御カレカ作りシ毛抜ニテ御髭ヲヌ

キ給ハヨクヌケテ少モノコラス南方不毛之地ト
イフ事ノアレハ常々カレヲ南方ト仰ラレシヨ

リ名トナリタルトナリ
秤ノ目ヲシル夏ハ賤キ事ノヤウニ覺エタルモアリ

僻事ナリ高貴ノウヘニテモ秤目ヲシリ給ハ子バナ
ラヌ事モアリ其家法ノ葦物ヲタミ或藥ヲ

調合スルニ分量ヲ知り給ハズシテハカナハナナリ是
故ニヤ高貴ノ御厨子ニ秤ヲ入レオク事雅スケ世衣

東抄ニ見エタリ

庖丁刀ヲ庖丁ト云。厨斗蛇ヲノシト云。奉書紙
杉原紙モ略シテカミヲイハザレトモ人々互ニ意得
ル事ニナリ。又是等ノ類アゲテカソフベカラス。杉原
紙ヲ杉原トバカリイフ事。久シ夏ナルニヤ。海人
藻苾康富記ニモ杉原トバカリ見エタリ。

鏡鐘鍋釜ノ類ハ鑄ルトイヒ。劔刀ノ類ハ鑄ルト
ハイハズウツト云フトノミ。覺エタル人モアリ。古ヨリ
劔ヲ鑄ルト云ナリ。其證ハ侍中郡要ニ鑄節刀
使雲井ノ春ニツルキヤハ傳タテマツリシト仰アリ

ケルニト見エタリ。又職原鈔。鑄改鏡劔トアリ。異
國ノ例ハ左傳ニ曰。莒子庚與虐。而好劔。苟鑄劔。必
試諸人。唐書ニ曰。鑄三尺劔。示威光。又杜常詩。木
梅磨玉白。水仙鑄劔青。カク和漢トモ。劔ヲ鑄ル
トイフナリ。

砧ノ訓ハキヌイヌノ畧ナリ。
書籍ノ寸法ハ横曲尺ニテ六寸ナラハ縦ハ曲尺ノ
ウラノ尺ニテ六寸ニスヘシ。縦横トモニウラオモテ
ノ尺ニテ同寸ニスヘシ。外題ハ縦ハ書物ノ三分二
横ハ六分一ナリ。書物ニカキラス。縦横アル箱ナ

トモウラオモテノ尺ニテ同寸ニスレハ恰好ヨシ
實玉造玉見知リヤウノ夏ハ真ノ玉ウチアハセ
テ聞ニ音ニ響ナシ造玉ハ響アリ又實玉ハ火ニモ
ヤケズワレザルモノナリト或書見エタリ又目ガ子
ノ玉ノ真偽ヲ知ルニ真玉ハ舌ニアツルニヒヤ、カ
ナリ造玉ハヒヤ、カナラス

閑達ニテ清淨ナル僧ハ色メキタル戯ヲイフモノ
ナリ是其身ニ疵ナキユエナリ花山ノ僧正ノ戀
ノ歌ハ普通ノ僧ノヨミガタカルベキ詞多シ

君上ノ判物私家ノ系圖此外大切ナル文書等
入タル箱ノ鍵ハ常ニ脇差ノ栗形ナドニ付置テ
然ルヘキニヤ

鷹狩ノ詞ニ鷹鴨ヲ田物トイヒ鶴鴻鷺其外水
鳥ヲラン鳥トイフトナリ

ムカシ諸國ニ便宜ニシタカヒ兵器ヲ納メ置カシ是
ヲ武庫トモ兵庫トモイフ摂津國ノ武庫トイ
フ是ナリ兵庫ノ浦モ是故ナリ

辻々ノ門柵ヲ釘貫トイフ事今ハ都ガメノ人
モイハヌヤウニナリタリ西國邊ニテハ今モクキヌ
キトイフ所モアリ更級日記ニ清見関ハカクツ

カタハ海ナルニ關屋ドモア一々アリテ海ニテク
ギヌキシタリ又康富記ニ條東洞院釘貫ト見
エタリ

康富此ニテハ一條通ニ東洞院アリ
内裏ハ今所ヨリハルカ西ニツタリ

河内國交野ノ郡藤坂ト云所ニ王仁ノ墓アリ土
俗ニ鬼ノ塚ト云ワウニシテオニトアヤテリタルト
イヘリ噺樂磨按スルニ王仁ノ和訓ワニナリ古
事紀和迹吉師トアリ日本ノ人トナリタル上
ハワニト訓スル事勿論ナリサレバワニノツカト
云フヘキヲワトヲト五音通スルユエニオニノツカ
トイヒツケタリトオモハル又同國ニ和念池ト云

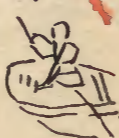
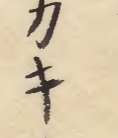
アリ是モ王仁ノ古キ名ノ残りタルニヤ

北野ノ宮ノ後ヲ流ル川ヲ紙屋川ト云又カヒ
川トモイフ昔此川ノホトリニ圖書寮ノ別院ニ
紙屋院アリ紙ヲスキシ所ナリ此所ニテスキシ
紙ヲカミヤ紙トイフ是故ニ紙屋川トイフナ
リトイヘリ北野ト平野トノ間ヲナガル故ニ神
谷川トイフナリトノ説ハ附會シタルナリ又カヒ
川トイフハ地野ト平野トノ間ヲナガル川ナレハ
アヒ川トイフベキヲアトカト同音通ズルユエニカ
ヒ川トイフニヤ甲斐國モ富士ト淺間ノ間ニア

レハアヒノ國ナルヲアカ同韻通ズレハカヒノ
國トイフヨシナリ山ノ間ノ狭キ所ヲ峽トイフ
山ノアヒナレトモアカ同韻通シテカイトイフ
攝津國大坂ノ町ノ名ニウツボ今云ト云所アリ
塩魚ヲ商フ所ナリ市ノ詞ニヤスノトイフヲ
豊臣太閤聞召テ矢筈ヤス々々ハ空穂ウツボヲ賣ルニ
ヤトメハフレテノメニヒシヨリノ各ナリトイフ
拾遺集ニ白雲ノ春ハカサ子テ立田山ヲクラノミ子
ニ花ニホフラントヨメリヲグラノミ子ハ今俗ニク
ラカリトイフ所ナリトイヘリ

京都ノ北千本通ノ上ニ蓮臺寺トイフ寺アリ
毎年ノ春普賢像トイフ櫻ノ咲比念佛會ヲ
執行ス是ヲ千本念佛トイフ此時彼寺ヨリ
櫻花ヲ諸司代へ献ス翌日此花ヲ獄舎へ下サ
ル此日獄舎ノ戸ヲ開キ囚人ヲ中田へ出シ花ヲ
見セシメ酒肴ヲ賜ルトナリ古例ナリト聞ク
山城國井手ノ蛙ハ名物ナリ歌ニモヨメリ彼蛙ヲ
他所ノ蛙ノ多キ所へ放テバ衆蛙音ヲトムトイ
ヒ傳へタリ或貴家ニ井手ヨリ蛙ヲ多ク取ヨセ
テ池ニハナサレタルニ或時他ノ蛙ヲツレタレハ

皆々音ヲトゞメテ、二三日スギテノキ、又音ヲ出シタリ、
其後他所ノ蛙ノ多キ所へ井手ノ蛙ヲハナサレ
タレバ、是亦二三日音ヲトゞメシカハ度々々メシ
見給ヒタルニ、ナシカアリシトナリ、サレハ井手
ノ蛙ノミカギリタルニアラザルベシ
山城國宇治川ハ南ヨリ北ニ流レ橋ハ東^{貞申}西^渡リ、
サレハ宇治川ノ南北ノ岸トイフハ誤レリ、
參河國矢作市ハ今ノ岡崎トイフ所ナリ
トイヘリ、
道口トハ越前國ヲイフナリ

○葦ノ葉書トイフハ文章ニ繪ヲ交テテ書事ナリ、
タトハ今日日ヨリモヨク候ハ、ニテ
ツリニ井ルベク候ナリ、書類ナリ、日蓮上人ノ
歌ニアレノ葉ノカタチハフ子ニ似タレトモナニハ
ノ人ハ、ソワタサレ、是アレノ葉ガキノ歌ナリ、
○記銀書トハ大納言ヲ大納言中將ヲ中將應永
ヲ應永元和ヲ元和嵯峨ヲ嵯峨醍醐ヲ醍醐
ト書ヲイフナリ、釋家ニテモ讀誦ヲ讀誦
瓔珞ヲ瓔珞菩薩ヲ并ト書類ナリ
斤假名ノ半体モ記録書ノエトシ

和久平左衛門
元和元年大坂
ヨリ使トシテ
伊達中納言
一行彼郷捕之
後日御免ニ
リ侍傳家・家人
トナリ子孫陸
奥國ニアリト

豊臣太閤ノ近士ニ和久何某トカヤイヒ人ハ陽
明家ノ御流ヲマナビテ手書ノ上手ナリ謠ノ本
ヲ書タルヲ世人モテアソビケルトナリ濁假名清
假名ヲ一ギレヌヤウニ書キ假名ヅカヒモ改メ正シメ
リカハルワケヲモ知リワキニヘズ後々ノ人假名
ノカキヤウヲモアヤマリタルトナリ

大定通寶ト云錢ハ唐錢ナリ日本ヘモ多ク来
リテ今ニアル錢ナリ此錢ノ文ハ弘法大師唐
土ヘユキ給ヒシ時彼土ノ帝王ノ勅ヲウケテ書
給ヒシトナリ異國ニテ能書ノ譽ヲ残サレタ
ルナリ

ワラハヘノ手習ハジメニ見ワケガタキ文字ヲ書
物ミズ引ズ書ガキタイフハ昔ヨリイヒシ事ニヤ榮花
物語ニ見エタリ

○同字意別トイフ事ハ同字ニテモ名目ニ依テ
意ノ違フ事ヲイフ假令一人ト云字ヲイチ
ジントイハ天子御事ニナリイチニシトイ
ハバ度人ノウヘノ言ナリ又人形ヲ音ニテニギヤ
ウトイハバ翫具ニナリ訓ニテヒトガタトイ
ハバハズ後ノ具ニナリ是等ノ類ヲ同字意別

トハイフナリ。

○同文古来ト云事アリ、是ハ古書ニ出タル文言ヲ一
字モ違ヘズ、其ニ書ク事ヲイフナリ、職原鈔ニ帝
皇編年記ノ文ヲ、其終ニ用井ラレル所モアリ、
又公家諸法度ニ禁秘鈔ノ文ヲ用井ラレタ
ル類ナリ。

○要略後見ト云事ハ文章ノ專要ノ文ヲ、取初
ニ略シテ、文章ノヲハリニシカト書アラフハ事ヲ
云ナリ、職原鈔神祇官ノ下ニ以當官置諸官
之上、是神國之風儀重天神地祇故也トアリテ
其文章ノ終ニ神國之故ニ以當官置太政官之
上トカ、セ給ヒタル類ナリ。

軍中ニテ故アリテ、討死ヲ思ヒサダメタル者、小
キ簡ニ姓名ヲ記シ、髻ニ結付ルヲ守付トイフ、此首ヲ
取タルハ一簾賞翫ノ事ナリ、雜兵ノ首トイヘド
モ守付アラハ士分ノ首ニ准ズ、ト曾我丹波守
右祐ノ記サレシ書ニ見エタリト聞ケリ。

治承四年七月九日安房國長佐六郎が郎等、
左中太常澄髻ニ札ヲ付タル事、東鑑ニ見エタリ、
守付ノ首ハヨク洗ヒ桶首桶寸法ニ入レテ其蓋フタニ首ノ
故實アリ

姓名ト討取タル人ノ姓名ヲ書記シテ、敵ノ方へ贈リ
カヘス故實ナリト聞リ

船軍ニ往昔ハ甲冑ヲ着セシナリ、近代ニ至リテ能

嶋久留嶋一流ニ一向甲冑ヲ用井ス鉢金ハチカネヲイレタ

ル由頭ユウトウ中鎖帷子ナカシヅキヲ用ルナリ、鎗ユツナトモ隨分手

輕ノ柄ノ短キヲ用ルナリ、足輕ノ鉄砲テッポウハ玉目タマメナク

上ヲ用ルナリスベテ軍法陸軍トハ大キニ違ヒタル

事多シ

天文ヲ候ウケウテ時變ヲ知ルト云事ハ意得カメキ莫

ナリ時變ヲ知事ハ別ニ術アルベシト思ハル

此行旌周禮折羽為旌ノ次ニアリ誤リテ此ニ出

録ニヤス矢ノ數ハ多クハ二十四ナリ、此ウチツハ矢

カラミノ緒ニテ、鎧ニカラミ付ルナリ、二十三射ハラ

ヒテアトニ一ツノユサ子バエビラガクツル、ナリ是故

ニ是非ニツバ残スナリ、平家物語橋合戦ノ段

三十四サシタル矢ニテ、敵十二人射オトシ十一人

手ヲ負セタルハ録ニヒトツゾノユリタリトアル

ハ是ナリ、其後エビラモトイテ捨テケリトハ残

リシ矢モ射ハラヒテエビラガクツレテ、働ノサハ

リ、三十九故ニトイテ捨タルナリ、梶原ノエビラ

ノ梅ハミタク風流ニアラズ矢ヲ皆射ハラヒテ梅ノ
枝ヲサシテエビラヲカタメタルナルベシ



